

児童自己評価・保護者評価・職員評価集計

評価 資質・能力	評価内容		児童割合				児童 平均値	保護者割合				保護者 平均値	職員 平均値	
	職員	児童・保護者	4	3	2	1		4	3	2	1			
関わり合う力	1	命の尊重と人権教育の推進	自分のことも友達のこと大切にして	83%	15%	2%	0%	3.8	65%	35%	0%	0%	3.6	3.0
	2	授業と日常指導を関連させた道徳教育	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	3	心理的安定性のある居場所づくり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	4	「きく力」「伝える力」の日常的育成	人の話を最後まで聞いたり、進んで自分の考えを伝えたりしている。	50%	44%	4%	2%	3.4	31%	61%	8%	0%	3.2	2.9
	5	同年齢間及び異年齢間の交流促進	同じ学年の人や違う学年の人と、あいさつをしたり遊んだりしている。	67%	24%	9%	0%	3.6	59%	41%	0%	0%	3.6	3.0
やり抜く力	6	よりよい生活習慣の形成	規則正しい生活をしている。	39%	43%	17%	2%	3.2	20%	59%	20%	2%	3.0	2.8
	7	体力を向上させる取組の充実	体力が向上するようにがんばっている。	49%	34%	15%	2%	3.3	24%	49%	22%	6%	2.9	2.9
	8	保健・安全・食に関する指導の充実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	9	達成感を得られる機会の創出	当番の仕事や、自分で決めたことを最後までがんばっている。	66%	26%	8%	0%	3.6	37%	51%	12%	0%	3.3	3.1
	10	ほめて伸ばす指導の推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
自ら学ぶ力	11	「熊本の学び」及び「人吉型授業」の推進	授業に進んで真剣に取り組んでいる。	54%	43%	4%	0%	3.5	35%	55%	8%	2%	3.2	2.9
	12	基礎的・基本的事項の確実な定着	音読や読書、漢字、計算の学習をがんばっている。	69%	28%	4%	0%	3.6	35%	47%	16%	2%	3.2	2.6
	13	児童と教師の目指す姿の共有	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9
	14	ICT活用等による授業のUD化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1
	15	授業や自己の課題とつながりのある家庭学習の推進	授業で学んだことや、自分の苦手なことを意識した家庭学習に取り組んでいる。	44%	37%	19%	0%	3.3	27%	39%	27%	6%	2.9	2.4
働き方改革	働き方改革の視点を持ち、勤務時間の自己管理や業務の効率化、意識改革等に努めている。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8

- 児童は、保護者や職員が考えているよりも、「できている」「頑張っている」と捉えています。その、「できている」「頑張っている」と捉えている場面に気づき、**タイムリーに認め、具体的に褒め、力強く励まし、期待をかけていけば、更に「できるように」「頑張れるように」**なります。
- 「よりよい生活習慣の形成」については、学年が上がるにつれて、児童も保護者も職員も評価が厳しい傾向にあります。発達段階との関わりも大きいと思われますが、より一層、**健康面や生活リズム、家庭学習の面等から、家庭と共通理解を図りながら進めていく必要**があります。
- 「体力を向上させる取組の充実」については、児童の受け止めと、保護者・職員の受け止めが異なります。学校においては、**体力の実態を踏まえて、週3時間の体育科学習を充実させていくことが第一**です。その上で、きっかけを作り**休み時間や下校後の外遊びを勧め**ていきましょう。
- 「熊本の学び等の推進」については、問い方のニュアンスが異なるために評価結果も随分と違います。私たちは、**子供を学びの主体とする授業力向上、全国・県・市学力調査等の結果から見られる課題を踏まえた授業改善、共通実践事項の励行を徹底**していきましょう。
- 「基礎的・基本的事項の徹底」については、いろいろな取組方があると思います。ただ、以前からお伝えしているように、**汎用的読解力をベースとしたPISA型読解力の育成**は欠かせません。**初見の文章でもすらすらと読めるよう、様々な場面で音読を鍛え**ましょう。
- 「授業や自己の課題とつながりのある家庭学習の推進」については、発達段階や学習経験に応じて、自主学習を導入していただいていると思います。授業とのつながりを考えながら「自分で計画して取り組む家庭学習」のために、**視点を明確にした振り返り活動の充実**は欠かせません。振り返り活動で、何がわかり何が不十分なのか、何をもっと知りたいのか等、**児童に自身の学びの状況を自覚**させてやってください。
- 先生方の元気と活力が、児童の学びを支えます。働き方改革については、現場でできることを**知恵を出し合い一緒に進めて**いきましょう。